

7. 意見交換

DOCOMOMO Japanの木阪氏から「近代的、歴史的な観点からの考察」について質問があり、松藤泰典氏より、「1970年代から、大きく倫理観が動いて行った」と解説があった。次に、構造計画研究所の田中氏から「倫理はしくみ作りで何とか変えていこうと考えているが」との意見があり、白楽ロックビル氏から「企業は、しくみを、手を打っている方が、成功するだろう」、松藤泰典氏からも「しくみは作るべきだ、そして、前例をしっかりと、踏査していくのがよい」と解説がされた。また、石川孝重氏からは、「しくみは必要であるが、法律化して縛りを強くしていても、それで悪いことが起きないかというとなかなか難しい。信頼社会の中で何が求められているのか」という意見が示された。

8. まとめ

白楽ロックビル氏から、建築は、(科学技術系) 事件の総数からいえば少ないが、これほど対応されているので、取り組みの好い姿勢の学会とのコメントをいただいた。

最後に、松藤泰典氏から、基調講演や皆様から寄せられたご意見を参考にして、さらに委員会活動に積極的に取り組むことと、第2弾のシンポジウム(企業編)を来年2月に予定していることを説明して、本シンポジウムがまとめられた。

中島芳樹／大林組

RILEMニュース

RILEM WEEKの概要

材料施工委員会 RILEM小委員会

1. はじめに

2010年9月6日から9月9日にかけて第64回RILEM WEEKがドイツのアーヘンで開催された。RILEM WEEKでは、総会を中心に各定例の会議が開催されるとともに、各研究会(TC)の会合がもたれた。以下、その概要について報告する。

2. RILEM Management Advisory Committee (MAC) についての報告

RILEM Management Advisory Committee (MAC) は、RILEMの運営方針の原案について検討する委員会である。会議期間中2日間に掛けて会合が開かれ、RILEMの運営方針についての審議が行われた。審議された主な内容は、①RILEMのパンフレットの更新、②コミュニケーションプラン(会員の情報交換・交流プラン)の検討状況、③シニア会員のカテゴリーの設置、④Director of Development (RILEMの活性化について検討する担当)の中間報告、⑤RILEM Bylaw (規約)の改正、⑥MACの委員構成と任期、並びに、MACのメンバー交代、⑦ラテンアメリカRegional Group (地域グループ)の活動、⑧総会における投票の方法、⑨MACの目標(作業ロードマップ)、⑩学術誌Material and Structureのインパクトファクター、などであった。

3. RILEM Develop Meeting (RILEMの活性化について検討する会議) についての報告

会議2日目の午後に2時間を要し、RILEM Develop Meetingが開催された。第1回の会合は2010年3月16日にフランスにて開催され、今回は第2回目の会合であり、RILEMをどのようにして活性化するかを中心に報告・審議が行われた。同会議にはMACのメンバー、TACのメンバーなどRILEMの活動に主体的に関わっている関係者が出席した。会議では、①Management Advisory Committee (MAC)における審議事項、②Technical Activities Committee (TAC)における審議事項、③各地域における活動状況、④新しい会員の増やすための対策などについての報告があった。

特に④の新しい会員の増やすための対策に関連しては、RILEMの

活動範囲を広げることを目的として、RILEM Weekの内容の見直しを検討していることが報告された。その一環として、来年のRILEM Weekから新しい試みを導入することが報告された。例えば、Technical Dayはこれまでのように、RILEM Weekの最終日の終日の催し物とはせず、従来Technical Dayに行われてきたTCの報告などは、同時開催される国際会議の中に一連のセッションとして組み込まれる。また、国際会議のテーマ自体もコンクリート材料に特化せず、広くさまざまな材料を対象とすることになる。

3. General Council (総会) についての報告

RILEM WEEKの3日目の午後にGeneral Council (総会)が開催された。RILEM会長のPeter Richner氏の進行のもとに、①National Delegate (国の代表)の任命、②各委員会の委員の交代、③今年度のRobert L'Hermite 賞の受賞の内容、④編集委員会の活動、⑤規約の改正、⑥業績表彰、⑦MACとTACの活動状況、⑧予算状況、⑨Regional Group (地域グループ)の活動、次回以降のRILEM Week開催予定、などについての報告があり、すべての案件について総会参加者の過半数の了承のもと議決された。

上記案件のうち、いくつかについて内容を紹介する。①のNational Delegate (国の代表)の任命については、任期が終わるドイツと日本のNational Delegateについて今後5年間、継続して任命されることが報告された。④の編集委員会の活動については、学術誌Material and Structureの状況について、編集委員の構成やImpact Factorなどを中心に報告が行われた。⑧の予算状況については、会計報告が行われ、次年度の会費の増額がないことが報告された。⑩の次回以降のRILEM Week開催予定については、次回は2011年9月4～8日香港、次々回が2012年9月2～6日ケープタウン、その次が2013年9月パリにて開催されることがアナウンスされた。

4. Technical Dayについての報告

RILEM WEEKの最終日にTechnical Dayが開催された。Technical DayではRobert L'Hermite 賞の授与、終了したTechnical Committee (TC)の成果報告が行われた。Robert L'Hermite 賞は、Nele DE Belie氏の“Microorganisms versus stony materials (石材に及ぼす微生物の影響)”の研究業績に対して与えられた。

中島史郎／建築研究所

シンポジウム

「雪と建築」開催報告

教材委員会『雪と建築』編集小委員会、 構造委員会 荷重運営委員会 雪荷重小委員会

標記シンポジウムが2010年11月12日の午後に建築会館301、302会議室で開催された(写真)。本シンポジウムは教材委員会『「雪と建築」編集小委員会」と構造委員会荷重運営委員会「雪荷重小委員会」の共催によるもので、本来計画の段階で回避すべき雪問題が設計者の不理解から繰り返されている現状に対して楔を打つべく刊行された『雪と建築』の要点を中心に改めて雪問題の現状と課題について問いかけた。当日は関係者以外に35名の出席者を得、司会を清水建設の



写真 | シンポジウム「雪と建築」の様子